

散歩と所要時間

市川茂子

街の大通りの両側に位置する、住宅街の一角に転居してから、五年余りの月日が過ぎた。

大通りのバス停までは徒歩で五分位、一番近いコンビニまでは一つ先のバス停まで歩くようになる。バス停から上り下りのどちらも同じような距離にあるコンビニや郵便局、銀行、薬局などで用事をすませることが出来る。

その他の食品や生活雑貨などは、三つ先のバス停近くにあるスーパーマーケットまで行く。ほどよい距離で便利な場所なので、引越してきた頃から散歩がてらに、バス停を三つ、四つ通り越して歩くことも度々あった。

途中では子供用の小さな公園があつて、設えたベンチで一休みしながら、花壇に植えられた季節の花々を眺める。大通りの両側にある街路樹は、カシの木やハナミズキの白や赤などで、ほかの所にはトキワマンサクの木が植えられている。それぞれの根元にはきれいに剪定されたドウダンツツジ（満天星）や赤、白、ピンクのツツジが色分けして植えてある。季節の移り変りが美しい。

街を歩いていても自然の息吹を感じられるように、生活環境に配慮されている。

カシの木などは種類が多く、樹には名前のプレートが付いているので分かりやすい。都会では街のいたるところに並木通りや街路樹があつて、それぞれに趣を出している。

散歩の途中で目にする界隈だけでも、楽しみながら出かけられた日がなつかしく思うようになるくらい、コロナ禍と寒さに足止めされてしまったような頃である。年を重ねると、一年が二年、三年をも越えてしまったような思いに過ぎていく。街に居ながら不自由な思いをしなければならぬこともある。

最近ポストへ行くにも、コンビニに出かける時も、身がまえて出なければならぬ。着ぶくれしているうちは、なるべく出かけないようにしている。途中でつまずいて転んだら、即、骨折で、まわりの方に心配と迷惑をかけてしまう。それなりに注意しながら、老後をくらしているのだが覚束ない。

目を閉じると、遠い昔の里山の風景が幻のように脳裏に去来する。日常の生活でも目に触れる事に重なって、ふる里の自然がなつかしく思い出される。いくつになっても田舎の習性が忘れられないようだ。今にいたっては、自在に動くことが出来なくても、夢の中で残された時間を楽しく散歩しよう。